

21世紀生活圈研究会 試行的調査(四万十地域)

四国地方整備局
平成20年12月16日

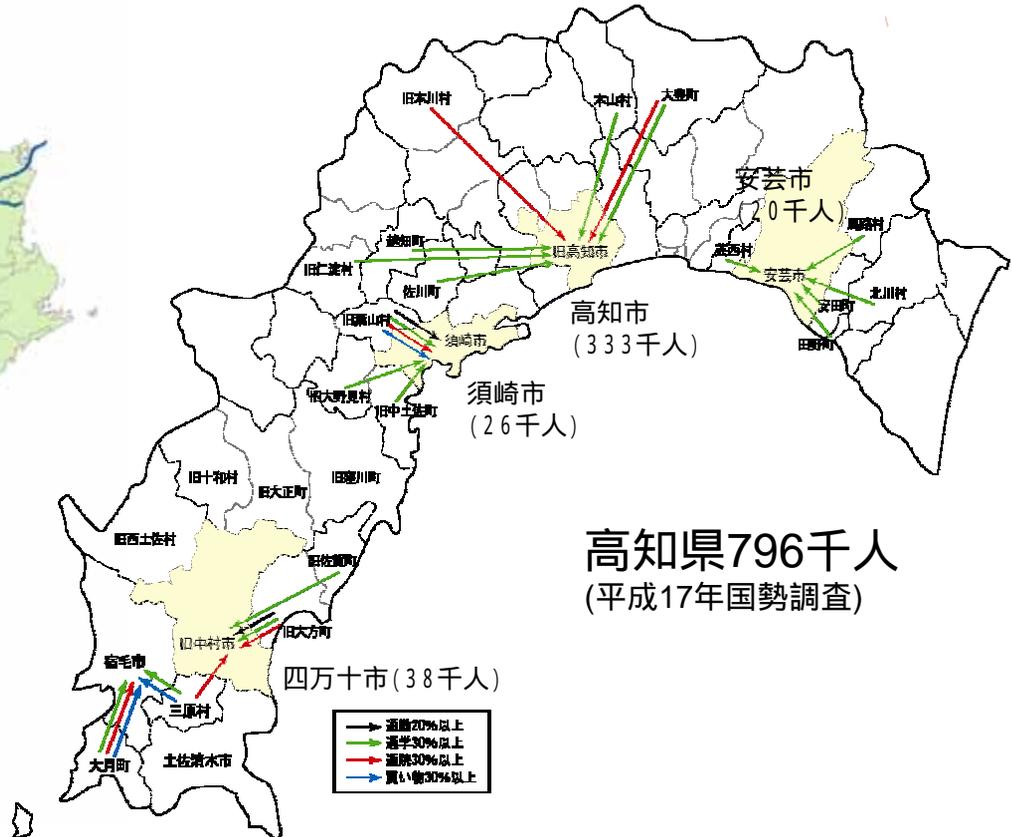
【地域の位置・規模、高知県での位置づけ】

- 四国の西南端に位置し、四万十市から高知市まで118km、松山市まで184kmの距離にある。
- 四万十市から車で高知市までの所要時間は約2時間30分、松山市まで約4時間
- 四万十市から車で京阪神までの所要時間は約7時間
- 四万十市を中心都市として、高知西南地域で一体的な生活圏域を形成している。

< 地域の位置 >



< 高知県での位置づけ (通勤・通学・通院・買い物の流動先) >



出典) 市町村合併・広域行政検討委員会報告書(平成13年1月)より抜粋
 (平成7年国勢調査、平成9年高知県患者調査、平成7年お買い物アンケート調査)

【公共公益施設の分布】

- ・ 高速道路は、愛媛方面：西予宇和IC(西予市)、高知方面：須崎東IC(須崎市)までしか整備されていない。
- ・ 鉄道は、窪川を分岐点に宇和島市へは「JR」予土線、宿毛市までは「土佐くろしお鉄道」(第三セクター)が運行しているが、宿毛市と宇和島市間は鉄道はない。

「JR」予土線(普通上下合わせて13本)、「土佐くろしお鉄道」(特急:上下合わせ18本、普通:上下合わせて窪川～中村間14本、中村～宿毛間24本)

- ・ 高等学校(分校含む)、消防署は旧市町村中心地点にほぼ点在している。
- ・ 夜間受け入れ可能な病院は、地域内に3カ所しか存在しない。
- ・ 域外には近接して宇和島市に病院があり、高知県境付近からも県境をまたいで利用。



四万十地域の概要

総人口 : 3市5町1村 153,130人(平成17年国勢調査)

中心市 : 四万十市 (人口: 37,917人)

周辺市町村: 2市5町1村 (人口: 115,213人)

(高知県) 宿毛市(24,397人)・土佐清水市(17,281人)・四万十町(20,527人)・大月町(6,437人)・三原村(1,808人)・黒潮町(13,437人)
 (愛媛県) 松野町(4,690人)・愛南町(26,636人)

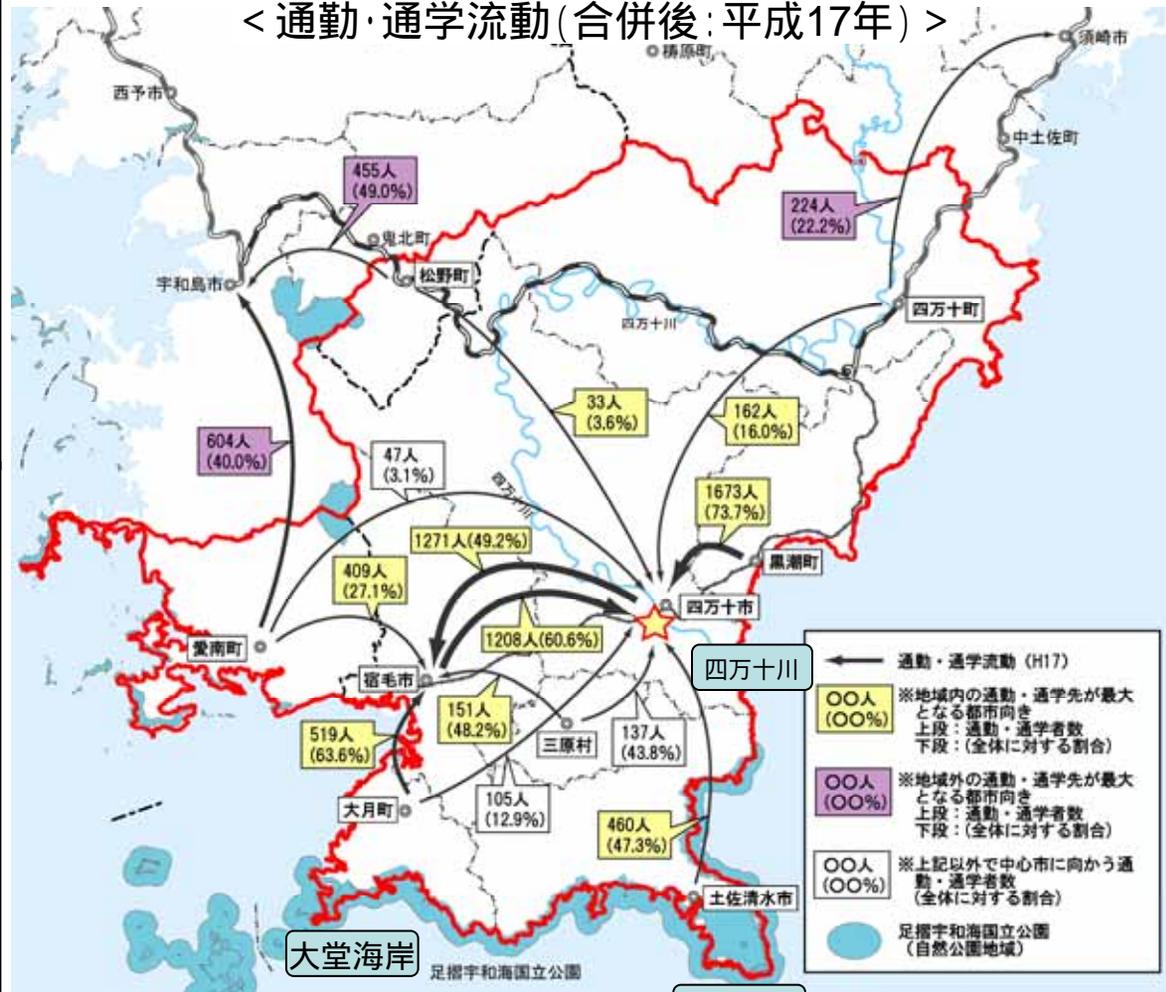
【自然・観光資源】

- ・林野面積率は83.8% (2,131km²)で、豊富な原生林が残されている。
- ・観光資源として、日本最後の清流と呼ばれる四万十川や、足摺宇和海国立公園の区域となっている足摺岬・大堂海岸などの海岸景観がある。

【通勤・通学の動き (合併後:平成17年)】

- ・四万十市が概ね通勤・通学先となっているが、宿毛市とは相互依存関係にある。
- ・宿毛市周辺町村(大月町・三原村・愛南町)は宿毛市に流動している。
- ・そのうち愛南町は、県境をまたいでの流動である。

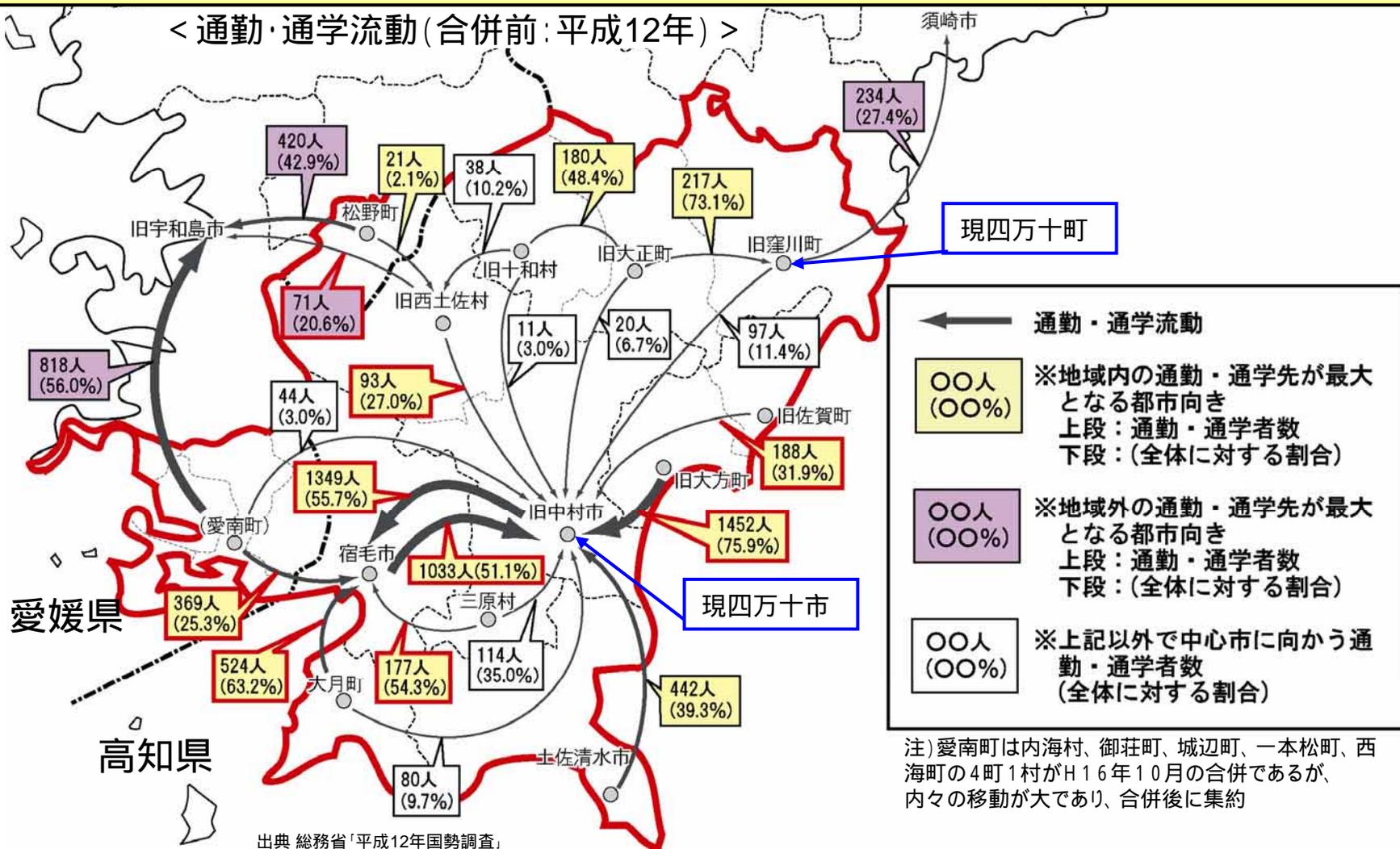
<通勤・通学流動(合併後:平成17年)>



四万十地域の概要

【通勤・通学の動き(合併前:平成12年)】

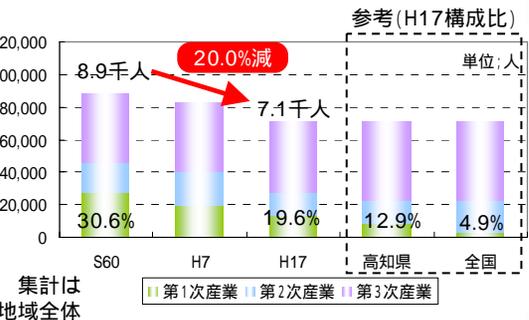
- ・現四万十市の旧西土佐村は、旧中村市に次いで、県境をまたいで旧宇和島市への流動がある。
- ・旧佐賀町・旧大方町(現黒潮町)とも、旧中村市に流動している。
- ・現四万十町の旧十和村、旧大正町は現四万十町内の流動が大きい。
- ・現四万十町の旧窪川町は、他地域である須崎市への流動が大きい。



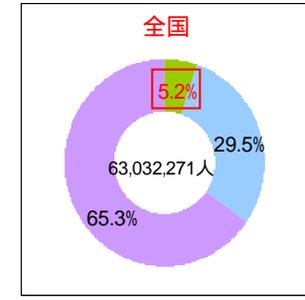
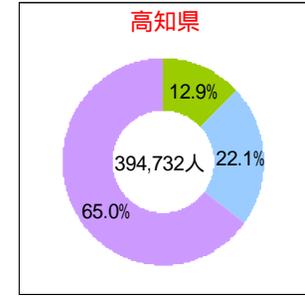
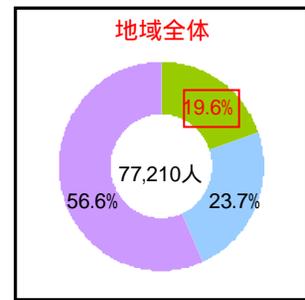
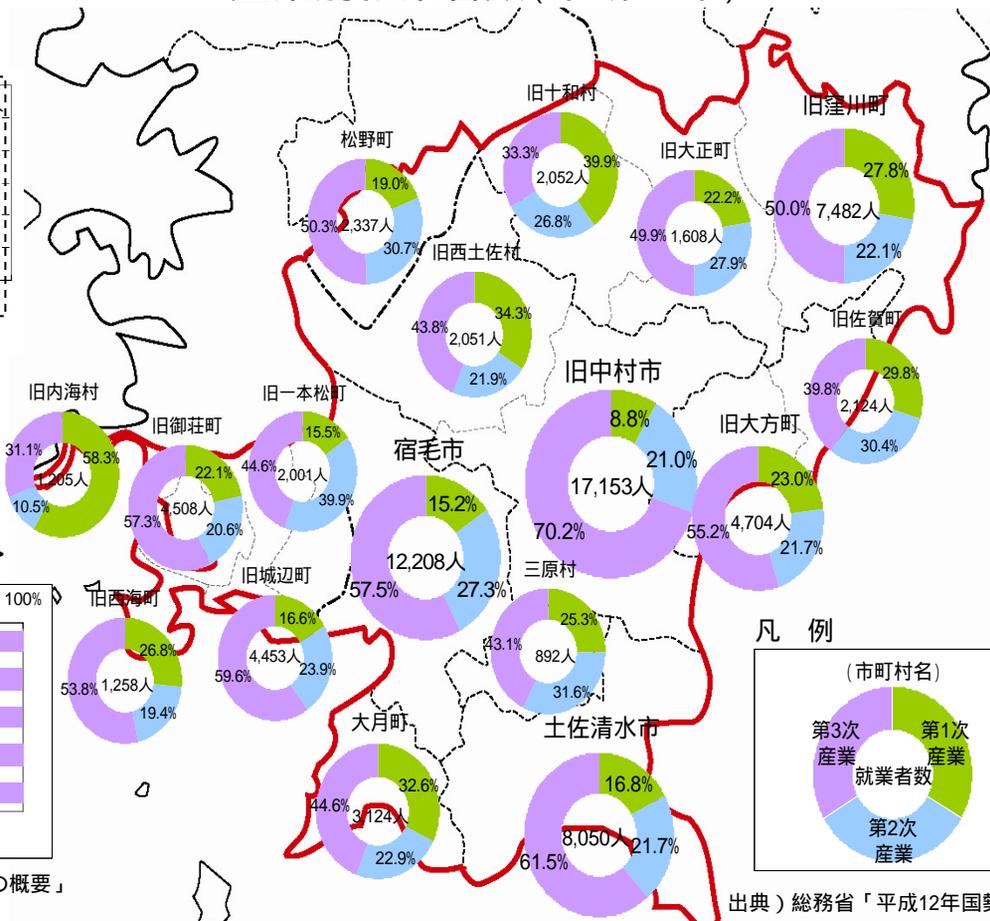
【就業者数の減少・第1次産業への依存】

- 地域の求人倍率は0.42倍(四万十職業安定所)で、全国(0.89倍;平成20年8月時点)の約半分と厳しい雇用環境にある。
- 就業者数(平成17年)は、昭和60年と比べて20%(18千人)減少している。
- 第1次産業の比率(平成17年;19.6%)は、全国値(平成17年;4.9%)及び県全体(平成17年;12.9%)と比べて高い。

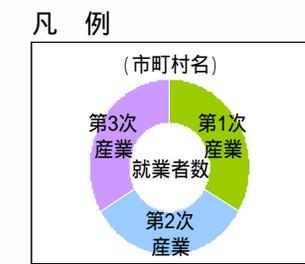
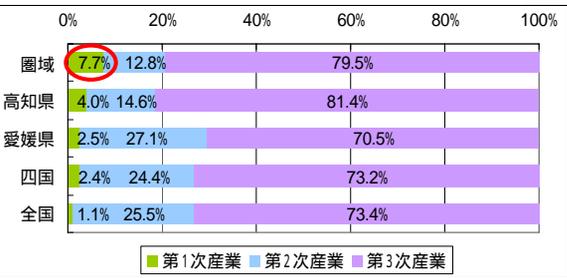
< 産業分類別就業者数の推移 >



< 産業別就業者数(平成12年) >



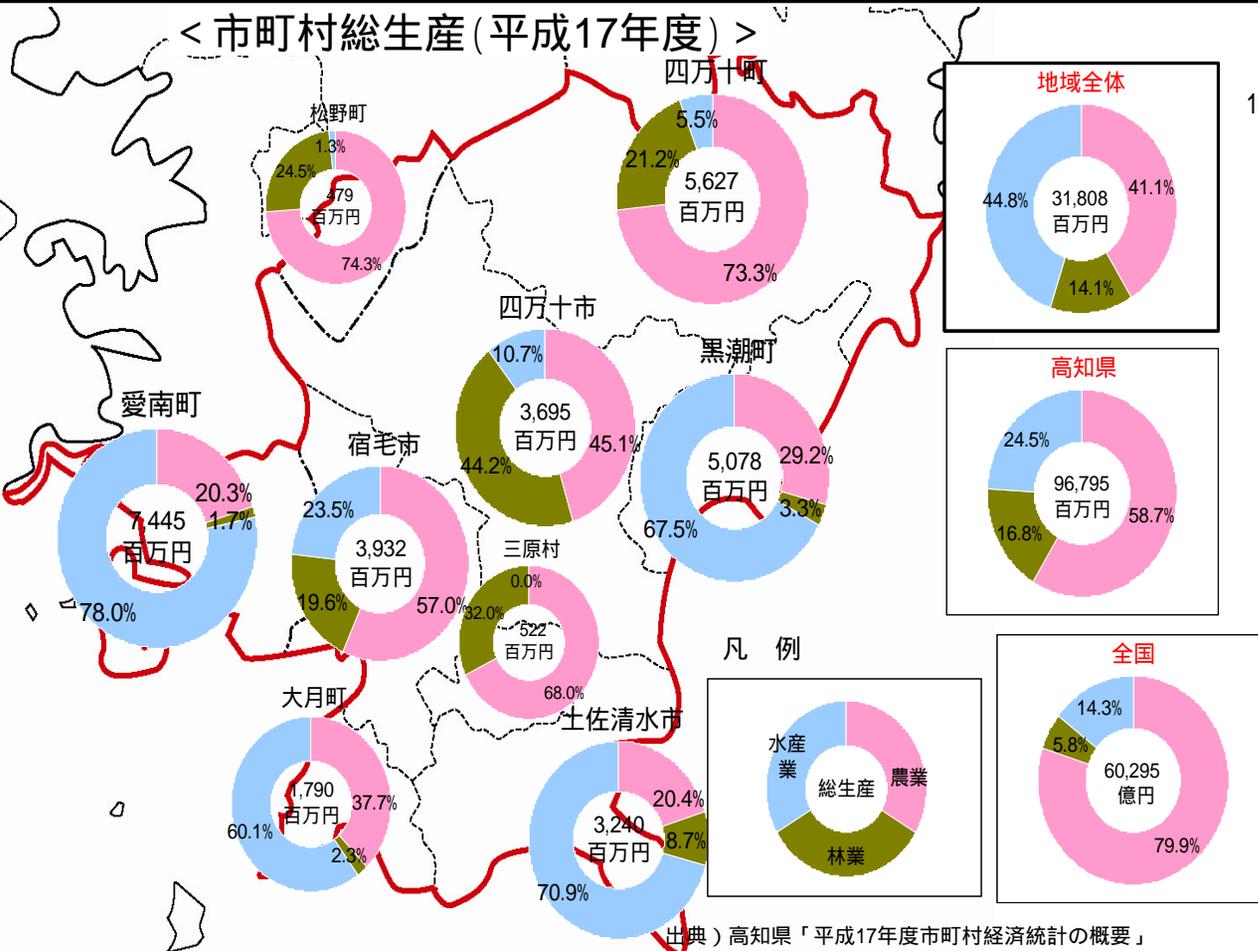
< 産業分類別総生産の比較 >



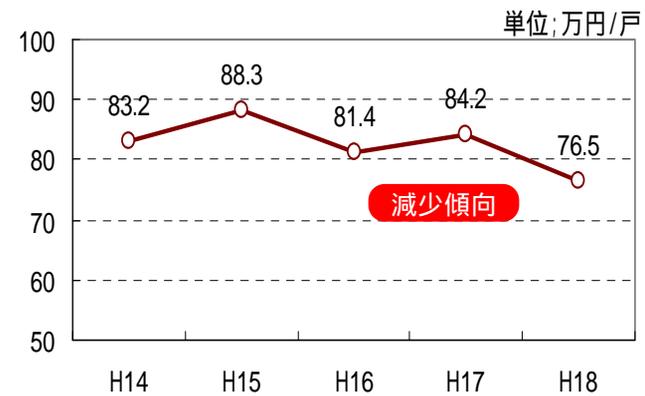
出典) 総務省「平成12年国勢調査」

【主要な産業分類】

- 内陸部(四万十市・宿毛市・四万十町・三原村・松野町)は農業の割合が大きい。
- 四万十市・三原村・四万十町・松野町は、林業の割合も比較的大きい。
- 臨海部(土佐清水市・大月町・黒潮町・愛南町)は水産業の割合が大きい。
- 総農家1戸当たりの生産農業所得は減少している。
- 販売農家の56%が後継者未定である。



< 生産農業所得の推移 >



集計は地域全体

出典) 農林水産省「生産農業所得統計」

< 販売農家の後継者状況 >

	販売農家数(戸)	後継者なし(戸)	割合(%)
圏域計	6,709	3,773	56.2

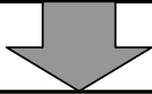
出典) 農林水産省「2005年世界農林業センサス」

出典) 高知県「平成17年度市町村経済統計の概要」
愛媛県「平成17年度愛媛県市町民所得統計」
内閣府「平成17年度県民経済計算」

～地域で起こっている問題～

【人口減少(流出)の状況】

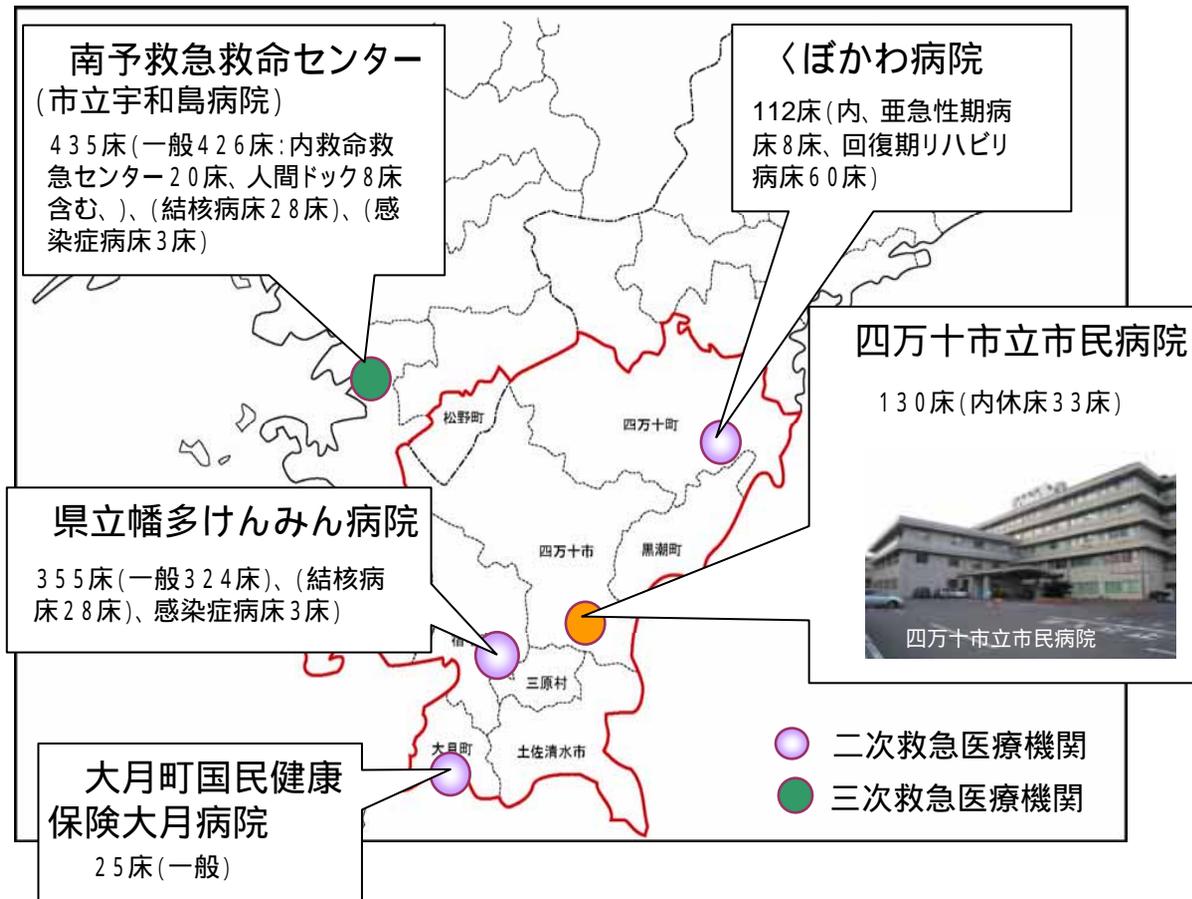
- 人口は、昭和40年と比べて26%(55千人)、生産年齢人口は31%(39千人)減少している。
- 近年、自然減が続いている。
- 転入者、転出者とも減少を続けており、転出者数が転入者数を上回っている。(H17 707人)



【医師数の減少】

- 平成18年の医師数は、平成16年と比べて37名(292名 255名)減少。
- 医師不足に伴い、四万十市立市民病院は夜間の救急医療機関を平成19年より撤回、地域内の夜間受け入れ病院が4 3カ所に減少した。
- 夜間の救急患者は宿毛の幡多けんみん病院が受け入れている。

< 救急医療対応病院 >



～地域で起こっている問題～

【中山間地域が多い四万十市(旧西土佐村)の事例】

- ・車での買い物が困難な高齢者が多いが、商店が少なく移動販売に依存している。
- ・移動販売は赤字であるが、生活維持に欠かせないサービスであり、かろうじて営業している。

住民による日用品、ガソリン販売

- ・ガソリンスタンドは4カ所
- ・その内1カ所は日用品販売と合わせ、JAはたが経営していたが、経営健全化のため、平成18年に廃止。
- ・そこで、住民108人が新会社を設立し、日用品、ガソリンの販売を実施

小学校の統廃合

- ・小学校は7校(内1校休校、1校廃校)
- ・H23年より、西土佐地域の7小学校を中心部の1校に統合する予定。
- 生徒は、スクールバスで登下校。

青果・魚類・天ぷら類を約16業者(地域内6業者、地域外10業者(宇和島市・宿毛市・旧中村市))が軽トラック等にて移動販売。

地域内の業者6社(西土佐商工会会員)は販売エリアを分担。



出典 ヒアリングによる

第1次産業低迷の原因

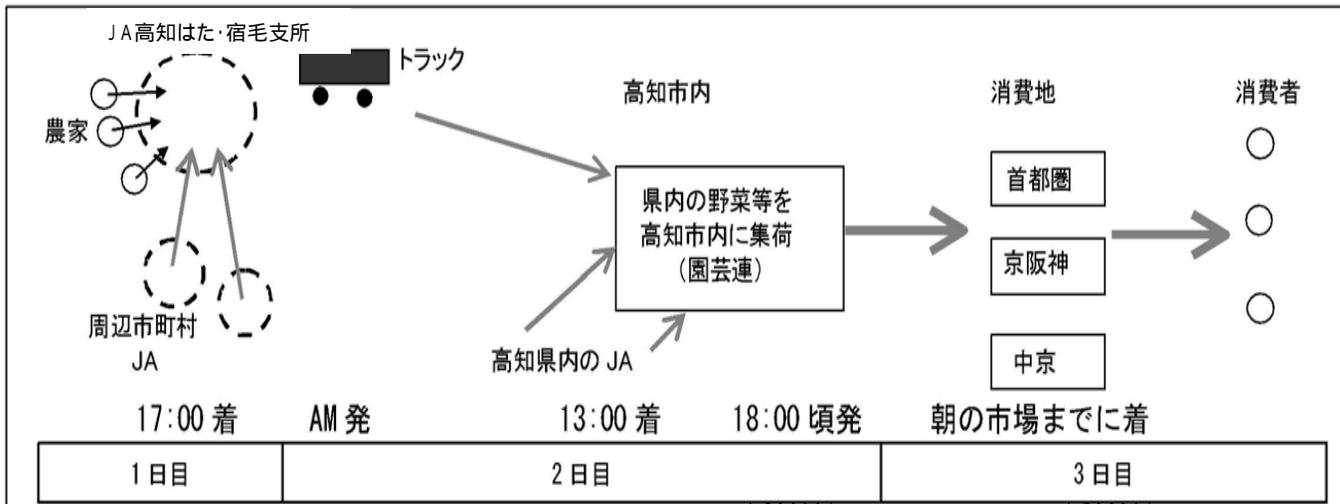
～地域で起こっている問題～

【農業】

農作物の出荷の現状

- ・高知県において、ショウガやニラ(高齢者でも作りやすい青果物)の生産高は全国でもトップである。
- (宿毛市の事例)
- ・鮮度が落ちやすいショウガやニラは、宿毛市ではほとんど栽培されていない。
- ・宿毛支所に出荷された野菜等はすべて高知市内に集められ仕分けをされるので、大阪の市場に出されるのは3日目になる。

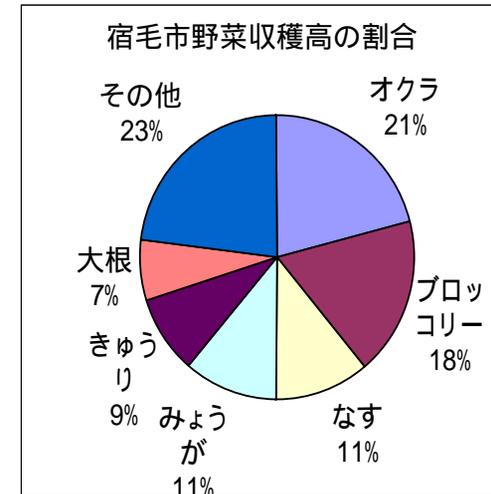
図 宿毛市周辺の野菜等の流通形態(ヒアリング)



農家から収穫した野菜をJA高知はた・宿毛支所に集積し、翌日まで保管

翌日午前、高知県内の拠点(高知市内)に出荷し、高知県内の出荷品を取りまとめ、大消費地の市場に間に合うよう18:00頃出荷

翌日、朝の市場までに到着。小売業者から消費者のもとへ



資料：第51次高知農林水産統計年報平成16～17(高知農林統計協会)

第1次産業低迷の原因

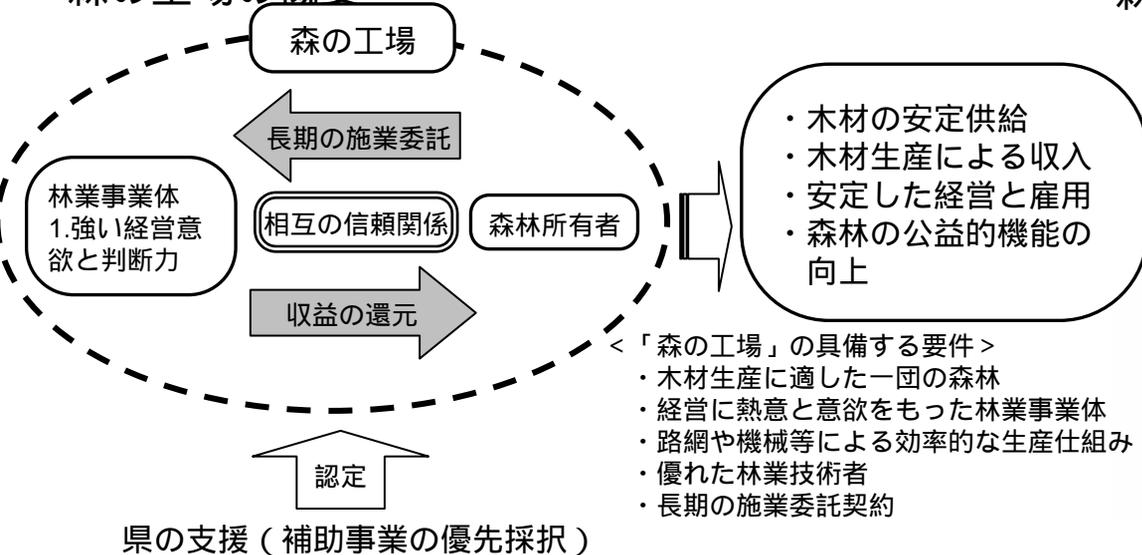
～地域で起こっている問題～

【林業】

- 四万十ひのきは、目が細かいので、吉野、木曽、東濃に次いで評価が高い。
- 森林の所有者が零細であり、生産・流通・加工が小規模である。
- ハウスメーカー等のニーズに応じた製品の安定供給ができていない。
- 高知県においては、四万十地域をはじめとして、県下全域において、林業生産の適地を所有者の同意に基づき一定規模にまとめ、安定的に木材を供給できる一団の森林(森の工場)の形成を進めている。

< 森の工場づくり > - 高知県における施業・経営の集約化促進の取り組み -

森の工場の概要



森の工場のイメージ



第1次産業低迷の原因

～地域で起こっている問題～

【水産業】

- 高知県の漁業のうち、まぐろ類、かつお類の生産量はそれぞれ全国4位。
- 四万十地域の海面漁業漁獲量は、約48千トンで高知県全体の53%。
- 中心市から大阪等の大消費地まで、陸路による移動時間は約7時間必要であるため、活魚や生鮮品の出荷が厳しい環境にある。



漁獲高全国第4位(H18)のカツオ

(宿毛市の事例)

- 宿毛市から阪神方面へのお荷は朝10時に出発し、17:00～18:00に到着するため、当日夕方の店舗に並べられない。

出典 漁業養殖業生産統計(H18)、第53次高知農林水産統計年報及びヒアリング

【その他】

高知県全域

- 旅行情報誌によるアンケートで食の魅力が全国トップクラス。
 大手旅行雑誌 宿泊旅行調査2008
 全国第2位 昨年度第1位
- 全般的に県産品の農産物は高水準の市場価格で取引されるため生鮮品での販売が主軸。
- 食品製造業者については年間販売額100万円未満が約60%占めており、製造者の意向も現状維持、または、減産が3/4に達するなど加工の担い手である農林漁家の生産意欲が低い。
- 農水産物の食品産業への広がりが乏しいため県外で加工(搾汁・魚のすり身・カツオ削り節など)せざるを得ない状況。
- 産業のすそ野が広い観光業とも連携が弱い。
- ただし、農林漁家民宿等は増加傾向にある。 H18 29軒 H20 41軒

出典) 第3回高知県産業振興計画検討委員会資料

調査骨子(検討の視点)

1 目指すべき地域の方向性

農林水産業を核とする生活圏の形成

1 - 1 . 課題(農林水産業の低迷)解決に向けた今後の対応策

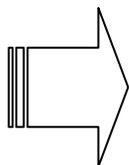
強み

- 四万十川や足摺岬など、認知度の高い観光資源が点在
- 来訪者は少ないが有望な観光資源が多く存在
- 認知度の高い清水さば等新鮮な活魚や生鮮品を出荷

弱み

- 人口減少、少子高齢化による後継者問題
- 産業間の連携が極端に弱い
- 大阪等の大消費地まで遠距離で、出荷が厳しい状況

今後の対応策
(仮説)として



1) 農林水産業の構造転換

大規模市場へのお荷の拡大
農林水産品のブランド化

1.5次産業化(加工産業化)の強化

2) 異業種との連携

異業種による農林水産業への参入
農林水産業と観光との連携

1 - 2 . 今後の対応策(仮説)の検証と評価

《評価(案)》

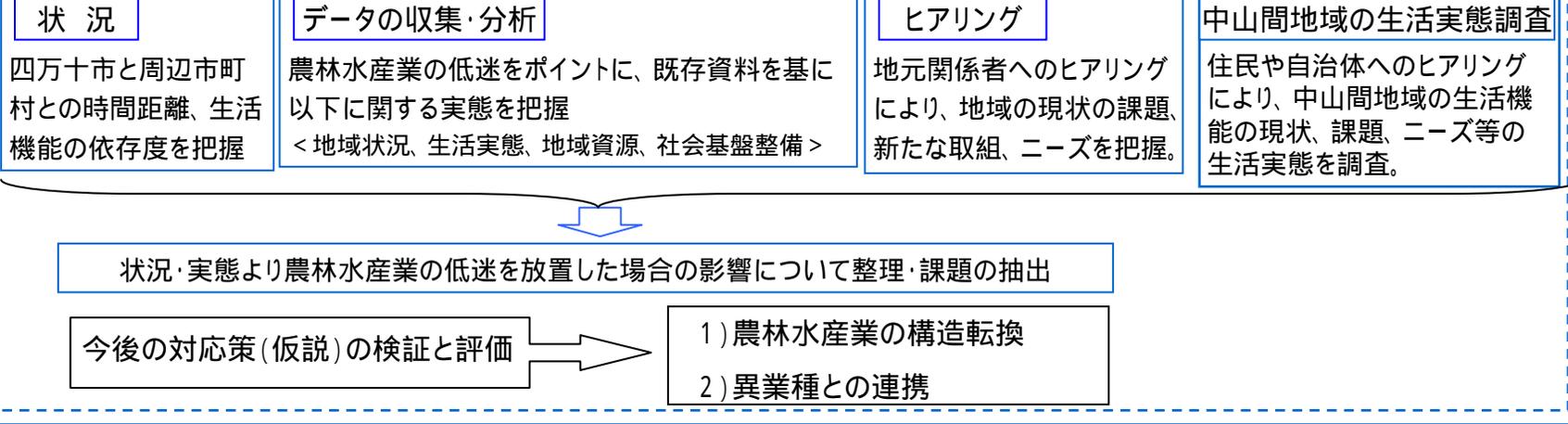
大規模市場へのお荷拡大
農林水産品のブランド化
1.5次産業化(加工産業化)の強化
異業種による農林水産業への参入
農林水産業と観光との連携

市場のターゲット、拡大の条件(所要時間・需要量、供給体制) 等
市場のターゲット、商品価値、流通体制 等
加工品、加工体制、採算性 等

参入の可能性、参入条件、採算性 等
市場のターゲット、資源価値、宿泊環境、交通環境、持続性 等

1. 四万十地域の状況・実態把握

地域の状況・実態把握



2. 今後の対応策の実現に向けた具体策と効果

1) 農林水産業の構造転換

時間短縮、信頼性の向上からの効果分析

2) 異業種との連携

連携による新たな取り組みからの効果分析

3. 実施手段の取りまとめ

転換方策に必要なソフト的取組と社会資本整備取りまとめ

転換方策に必要なソフト的取組と社会資本整備取りまとめ

地域内の役割分担と必要な社会資本整備提案

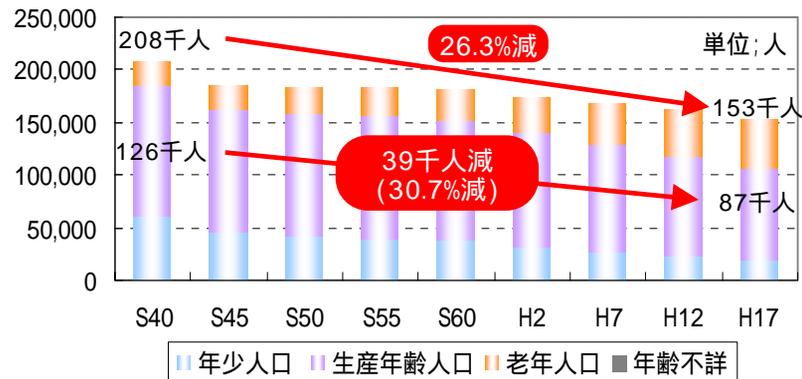
人口減少(流出)の状況

< 主な人口指標 >

市町村名	面積 (km2)	H17人口 (人)	うち 65歳以上	H12人口 (人)	人口増減 H17/H12	老年人口の割合
高知県	宿毛市	286.11	24,397	6,504	25,970 ▲ 1,573	26.7%
	土佐清水市	266.52	17,281	5,985	18,512 ▲ 1,231	34.6%
	四万十市	632.50	37,917	10,249	38,784 ▲ 867	27.0%
	四万十町	642.06	20,527	7,191	21,844 ▲ 1,317	35.0%
	大月町	103.04	6,437	2,296	6,956 ▲ 519	35.7%
	三原村	85.35	1,808	692	1,871 ▲ 63	38.3%
	黒潮町	188.38	13,437	4,332	14,208 ▲ 771	32.2%
高知県内計	2,203.96	121,804	37,249	128,145 ▲ 6,341	30.6%	
愛媛県	松野町	98.50	4,690	1,585	4,906 ▲ 216	33.8%
	愛南町	239.58	26,636	7,829	29,331 ▲ 2,695	29.4%
地域計	2,542.04	153,130	46,663	162,382 ▲ 9,252	30.5%	

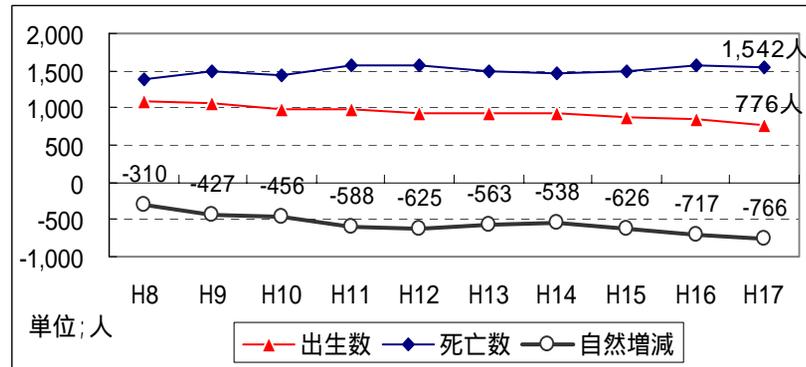
出典) 国土交通省国土地理院「平成17年度全国都道府県市区町村別面積調」
総務省「国勢調査」

< 年齢階層別人口の推移 >



出典) 総務省「国勢調査」

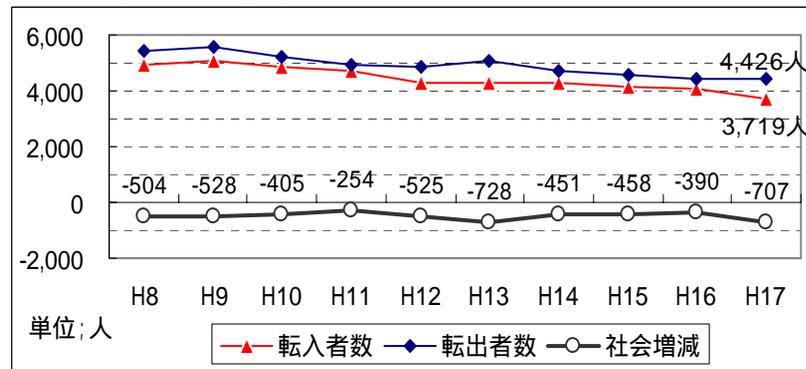
< 出生数・死亡数の推移 >



集計は高知県のみ

出典) 高知県「平成17年度高知県の人口移動」

< 転入者数・転出者数の推移 >

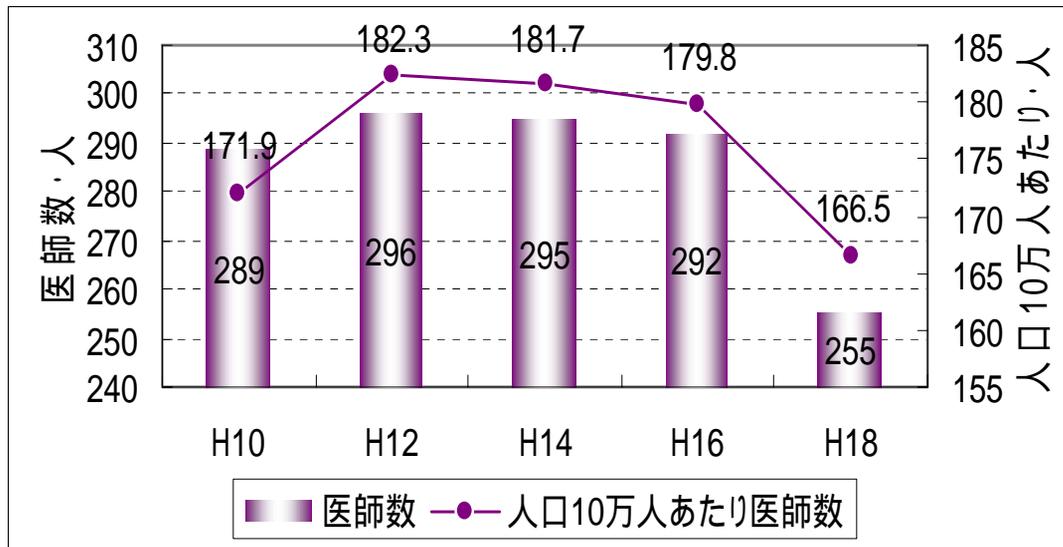


集計は高知県のみ

出典) 高知県「平成17年度高知県の人口移動」
注) 転入者・転出者には高知県の圏域内移動が含まれる。

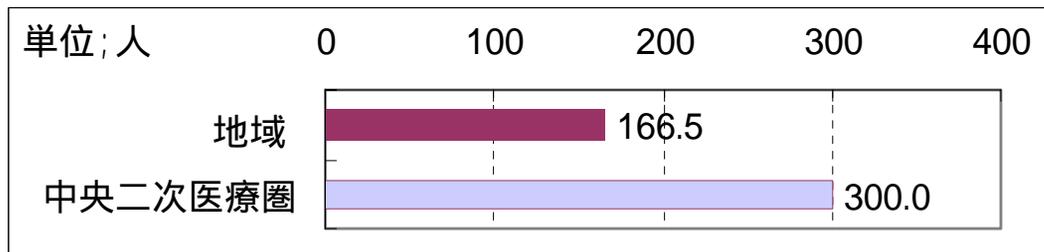
医師数の減少

< 医療施設従事医師数の推移 >



出典) 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、総務省「国勢調査」
 注) 人口あたり医師数は、平成7・12・17年人口を基に集計している。

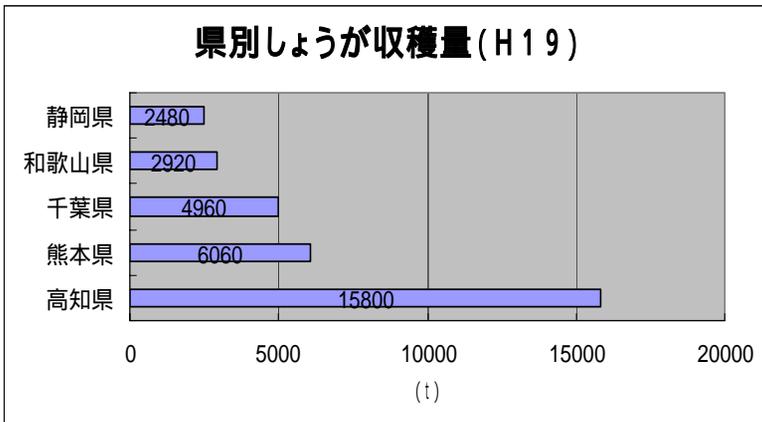
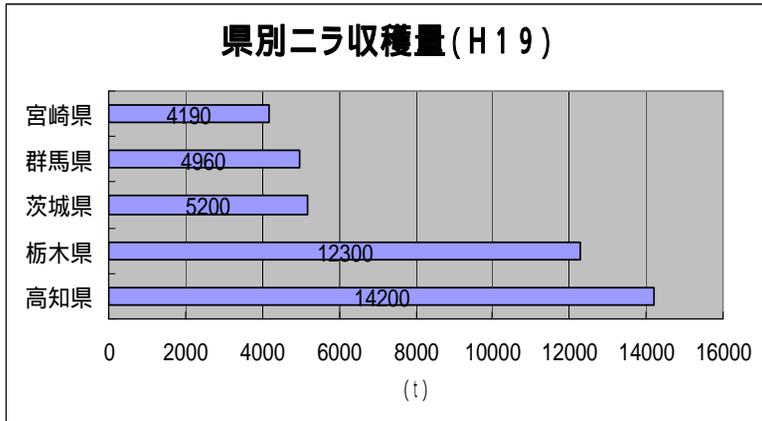
< 人口10万人あたり医師数の比較 >



出典) 厚生労働省「平成18年医師・歯科医師・薬剤師調査」
 総務省「平成17年国勢調査」
 注) 人口あたり医師数は、平成17年人口を基に集計している。

農業

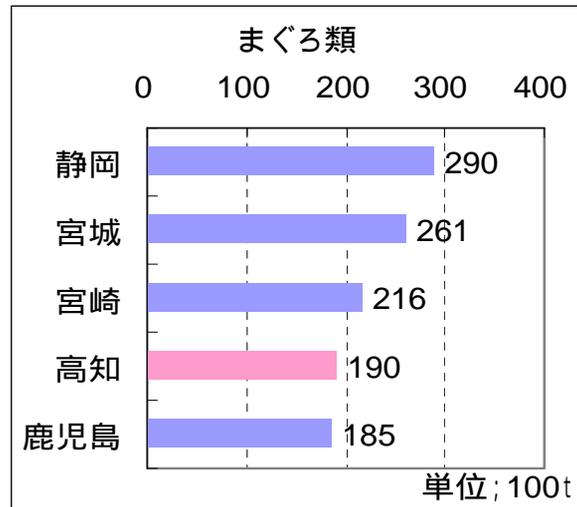
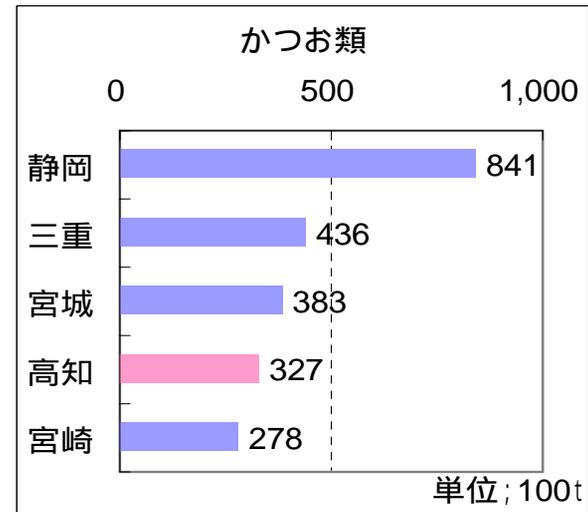
< ニラ・しょうが収穫量の上位5県（平成19年） >



出典) 政府統計 平成19年産秋冬野菜、指定野菜に準ずる野菜等の作付面積、収穫量及び出荷量

水産業

< 主な魚種別漁獲量の上位5県（平成18年） >



出典) 農林水産省「平成18年漁業・養殖業生産統計(概数)」